

## クリーンプラザふじみ整備・運営事業について

### 1 事業方式

クリーンプラザふじみの整備・運営にあたっては、施設の設計・建設及びその後の20年間の運営業務を一括発注するDBO方式（公設民営方式）を採用しました。

#### メリット

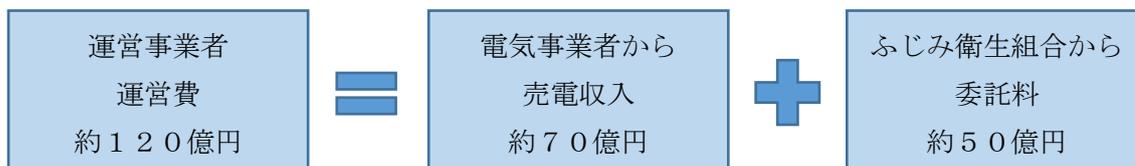
- ・施設を建設した事業者が運営するので、運営に必要な設備は設置しないなど、運営者の視点に立った建設が可能となり、建設費の縮減が図られる。
- ・運営費も入札することにより競争原理が働き、運営費の縮減が図られる。（一般的には、建設したプラントメーカー系列の運転業務を行う子会社との随意契約が多い。）

### 2 運営スキーム

運営費は20年間で約120億円ですが、運営費の半分以上は※売電収入で賄い、不足分をふじみ衛生組合が委託料として支払います。

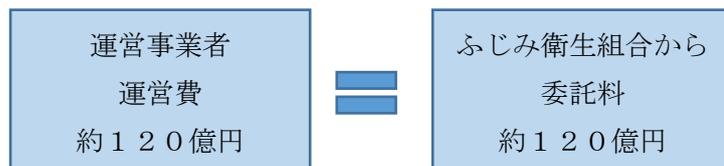
※クリーンプラザふじみには発電機が設置されており、焼却に伴って発生した熱エネルギーで電気をつくり、施設で使用するとともに、余った電気は電気事業者に売っています。

クリーンプラザふじみの運営スキーム



質問1 もし、売電収入をふじみ衛生組合の収入としたらどうなるのでしょうか？

(回答)



となり、実質支払額に変わりはありません。

質問2 なぜ、ふじみ衛生組合は上図の運営スキームにしたのでしょうか？

(回答)

上図の運営スキームの場合、売電収入の金額に関わりなく、ふじみ衛生組合は50億円を支払うこととなります。売電収入が70億円以上あれば、運営事業者は黒字経営となり、70億円を下回れば、運営事業者は赤字経営となります。ただし、この場合でもふじみ衛生組合は赤字を補てんしません。従って、運営事業者は効率的な運営に努めると考えられます。

一方、下図の運営スキームの場合、運営事業者は、ふじみ衛生組合からの委託料で運営を行うため収支はトントンです。売電収入の増減は、ふじみ衛生組合には影響がありますが、運営事業者には関係ありません。（売電収入が減っても損をするのはふじみ衛生組合です。）従って、上図の運営スキームと比べると運営事業者は効率的な運営に努めな  
い可能性があります。

そこで、ふじみ衛生組合は、売電収入を運営事業者の収入としたのです。